

高校低学年における英語学習の問題点について

櫛 本 英 彦

現代の英語教育においては、中学、高校の6年間に普通の英語の読み書きができるようにならなければならない。高校の低学年においては基礎的な理解と運用の能力が達成されていなければならないわけであるが、実際上においては各種の問題点、つまり不十分な理解、誤った理解等が問題となって来る。

我々日本人が英語の修得、特にその初歩の段階においておち入りやすい共通点を具体的に観察しその傾向を分類して考えて見たい。これらの傾向を理解し意識する事は生徒指導上の一側面として或る種の重要性を持つであろう。

A 文字、文章の書き方

- 1 i, t の書き順。点、横棒を先に書く傾向。
- 2 U. S. A のように省略を表わすピリオドを文字を区切るように用いる。
- 3 Mr, Mr、のようにピリオドのかわりにコンマ、又は日本語の読点を用いる。
- 4 行の最後に来るべきコンマを次の行の最初に打つ。
- 5 最後の行が一、二語の場合その語を行末の位置に書く。
- 6 文字の書き方がはっきりしないものがある。
大文字, v, w, r, a 等。

B 発 音

- 1 日本語のローマ字書き式の読み方。
a (ア), i (イ), ou (オウ). war, toward, allow, -al 等かならず読みちがえる語がある。
- 2 sit, site; mat, mateの混同。
- 3 cats の語尾はツであるが, mates 等の語尾はトウスと読まれる。
- 4 cruel, Smith 等においてcと r, S と m の間に母音を入れて読む。
- 5 two of, by a 等の間にnの音を入れ liaison にして発音する。
- 6 二重母音を二個の母音にわけて発音する。特に日本語にも用いられる語において。
counter, air, serious
- 7 語頭のアクセントを後にもって来る傾向。
- 8 flower, persuade 等の発音の不明確。
- 9 [g] [ŋ] 音の同一化
- 10 [ɔ] を日本語のオ [ɑ] を日本語のアと理解。
又カタカナ英語に影響され次の a) b) の母音を別の音に発音する。
a) watch, pocket, pot
b) collar, swallow, college, swan

C 初歩文法の理解及び訳読、作文において困難とする点。

- 1 be 動詞を日本語の「は」にがい当すると考える。
従って I am write
- 2 述語動詞および定型という概念が理解されず、又述語動詞の形態がはっきりつかめない。
I write, I am writing, I am write, I writing; It is raining, It is rainy,
It rains, It rain, It is rain, It raining が混同される。
又 It is been writing, He has wrote, It has be written 等。
- 3 that is~, there is 「~である」「~がある」の混同。
- 4 your's, yours'
- 5 日本語の助詞、英語の格、前置詞の関係が理解されない。特に I, my, me; mine 等の関係。as though they were his own 彼自身であるかのように
- 6 不完全自動詞としての taste, prove 等の困難、これらの場合、日本語がそのままあてはまらない。
- 7 s+v+o+o.c の構文。
I could not make myself understood. This enabled me to find it.
- 8 文中に過去分詞が受動の意味を持って出て来た場合理解に困難である。又受動態において、He robbed me of my purse. → My purse was robbed of. 等日本語の訳文を中心にして考える。副詞句等を能動、受動に関連させて行く場合も多い。
- 9 oneself の再帰用法を強調用法に誤解。
He seated himself. 自分自身坐った。
- 10 集合名詞の用い方。
特に people, a people の相違。
- 11 English, the English, an Englishman, Englishmen 等の違い。
- 12 some, any の用法。
some をたいていの場合「いくつかの」と考える。
- 13 未来、特に You shall~, He shall~, Shall I~?, Shall he~?
- 14 品詞が理解されず日本語から英文を構成する。
He into the garden.
I saw him into the the garden. He downs on the garden.
- 15 「他動詞+目的語」と「自動詞+前置詞句」の区別がはっきりしない。
- 16 前置詞が次の名詞(又は名詞相当語句)と結合する事、又それが形容詞句又は副詞句として用いられる事を理解しない。構文の理解をさまたげ、又訳出を困難にする。
the roses in the garden
庭の~
They play in the garden.
庭で~
- 17 冠詞+形容詞+名詞という語順の理解が不充分であるためか、特に訳読において、形容詞の修飾すべき語をとり違える。
- 18 比較級。特に less~。解釈において比較級が無視される事が多い。
彼より/背が高い。→より背が高い。→背が高い。
- 19 I am taller than he (is tall). の関係がわからない。

The hardships we lie under are easier to us than those of any other person would be.

- 20 前置詞を前の語につける傾向。

He waited for.

I listened to.

- 21 その他短い語を前の語につける傾向は日本語のリズムの影響とも考えられる。

This is better than / that.

He is able to / speak English.

I am a / schoolboy

a cup of / tea

この結果の I want a cup. 等の文が作れず、又 the study of meaning を「勉強の意味」

- 22 therefore—because; afterward—after 等副詞と接続詞が混同され、その結果構文が理解できない場合。

They were in time for the boat and after going through the customs formalities he was able to drive……

そしてそのあとで税関の手続をへて……

- 23 前置詞と接続詞の混同。

It makes a good many requests sound pleasant that without it would sound harsh.

それがきつく聞こえる事がなければ

in spite of all they could do

- 24 前置詞と副詞の混同。相互に短い語であるので機能を無視して混同される。

look at~, look up~, something to write down

- 25 walk down the street, walk about the garden 等の構文が理解できず訳がうまくできない。「庭のまわりを歩く」

The ice swept the raft down the stream.

- 26 日本語に訳出されない前置詞が無視される。

It was 1920 that he……(It was in 1920……)

It is Jenner that mankind owes the immense benefit. (It is to Jenner……)

- 27 前置詞+関係代名詞

Good manners are shown by the ease with which they are used.

たやすく用いられる事によって

the people among whom you live

君が住んでいるあいだの人々

- 28 不定詞+前置詞

前項と同様日本語になりにくい

「食べた物」→食物, 食器

「食べた人」「食べた部屋」「食べた時」

- 29 仮定法

- 30 関係代名詞と接続詞の混同。

the news that he learned, the news that he learned the fact; He has

nothing to say that's worth hearing 聞くに値するという事を何ら……

- 31 主語, 述語関係と修飾関係の混同。
～している人。人が～している。
……している～。～which……
- 32 付属疑問文
Just stop a minute and think how vital letters are to us.
いかに大切な手紙であるか
- 33 準動詞の時の表現。
たとえば完了不定詞と現在完了の混同。
- 34 類似の誤解がたとえば「be 動詞+進行形」といった表現に見られる。
- D 1 単語に対してきまった訳語。がいして非日常的な日本語である。
tell 告げる find 見出す leave 去る give 与える
want 欲する know 知る different 異った strange 奇妙な
stranger 見知らぬ人 a few 二三の wonder おどろく
decide 決定する for～ に対して as として too あまりにも
how いかにして what 何 this これ whole すべての
- 2 これらの訳語は英文和訳の円滑をさまたげる事もある。
I cannot sleep in a strange bed. 奇妙なベッド
I decided he was honest. ～と決心した。決定した。
Did you find it interesting? ～おもしろいと思出したか。
This is Mr. Brown. これは～ the whole town すべての町
They had different opinions. 異った意見
又不定詞を必らず「ために」と訳す傾向も多い。
- 3 これらの単一の訳語は同時に和文英訳の際の障害になる。
(君には)が見えますか Do you see～?
もうお帰りになりました He has left already.
～はどこですか What is the capital of Canada?
～がほしい I want～
～を手伝う help～
いくらですか What is the price?
車があったらなあ I wish I had a car.
あの人は誰かしら I wonder who he is.
行って見たらあの子は寝ていた I found him asleep.
～が三つ, ～がたくさん three apples, many apples
- E 英作文に際しても日本語との関係から語の把握できないものがある。
ぬる, おきる, (乗物に)のる, はれる, はやい, おそい, 戸がしまっている
(closed, locked), 子供 (one's son, child) おじいさん (old man, grandfather)
時間 (time, hour, o'clock) 帰る (leave, come home), put on, wear
- F 訳し方が生徒の頭の中できまっていてその語の真の意味の把握できないものもある。
president 大統領 queen 女王 capital 首府 morning 朝
evening 夕方 government 政府 (prefectural government)

nurse 看護婦 warm あたたかい law 法律 (Nature's laws)
privacy 秘密 door ドア question 質問

G カタカナ英語およびそれに準ずる語も文意の正確な把握をさまたげる場合がある。

motor industry モーター産業, take down the lecture in note ノートに書く
May I correct one of your statements? ステートメント
many great sailors 水夫達, highway 高速道路

H 英文の理解に関する問題点

1 単語の置きかえが通用しないので理解に困難を感じる。

He wrote home to his family.

He is out in Australia. オーストラリアの外にいる

walk about the garden.

They are the only citizens that…… ただ一人の市民達, ただの市民達
among other things, They were alone in the room. It was only by a hard
struggle that he was able to climb upon the boat.

英作文においても次のような作例が見られる。

～をありがとう I thank for～

2 単語の置きかえで意味のあいまいを来す。

pass a farm 農場を通る。 pass his house 彼の家を通る。

I'll send you to school. 学校へ送って行ってやる。

telephone call 電話の呼び出し free education 自由な教育

London theatres ロンドン劇場

I live with my uncle. ～と一しょに住んでいる。

the first meeting of the new Olympic Games ～の最初の会議

He is ready to help you. ～する準備をしている。

He is old enough to smoke. ～程年とっている。

He wore a suit. スーツを着た。 travel on land 土地を旅行する。

his boys 彼の少年 He caught me by the arm. 腕で私をつかんだ。

make money お金を作る。 make an answer, make tea,

They delighted with Venice ベニスでよろこんだ。

He did not notice me 私を認めなかった。

He made another trip there. そこで別の(所へ)旅行をした。

3 構文を無視して都合のよい解釈をする。

The more one learns, the easier do things become. より簡単に物事をする

take another look 別のものを見る。

the first decent hotel they saw 見たところ立派な。

You will never be in want of friends. 決して友達がほしくない。

He thinks differently from us. 我々と違っていると考える。

4 英語の順序通りに訳す。

And man, in particular, could not exist without both the plants and animals.

人は特に動植物なしでは

5 英単語の数だけの日本語の単語に置きかえる。

English theatres……other theatres 他の劇場（他の国の劇場の意）

これらの結果うまく訳出出来ない場合もでてくる。

You must be good. with little reward, It seems surprising. aid his people
in any way he could,

Any boy or girl who remembers that……

……を覚えているどの少年少女でもは

- 6 省略が理解できない場合が多い。

Both these are valid; the first because…… 第一の理由は、先ず……だから

A bird in the hand is worth two in the bush. やぶの中の二つの価値がある。

- 7 Comma で文を切ってしまう傾向。

They did, during the reign of Elizabeth I, make voyages……

これは別の見方から言えば挿入句が理解できない事でもある。

The English wait in line for everything. すべてのものに対して

- 8 接続詞なしで文をつなごうとする傾向。

Wherever we make our home, there he makes his too,

いつも私達は……し、彼も……

Every time …… , we…… いつも……し、我々は

又接続詞が何を接続するか無とくちやくである。

The plane cleared the mountain with ease and safely got back to the base.

容易に安全に……し、そして……に帰った。

Take good care of pence and the pounds will take care of themselves.

pence and the pounds を一括してしまう。